

JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第55期 第2四半期事業のご報告

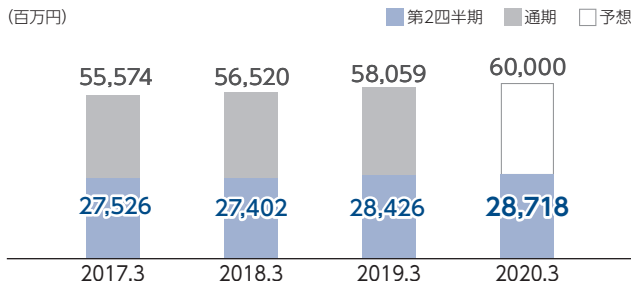
2019年4月1日～2019年9月30日

JMS
証券コード 7702

連結財務ハイライト 第55期 第2四半期業績(累計)

売上高

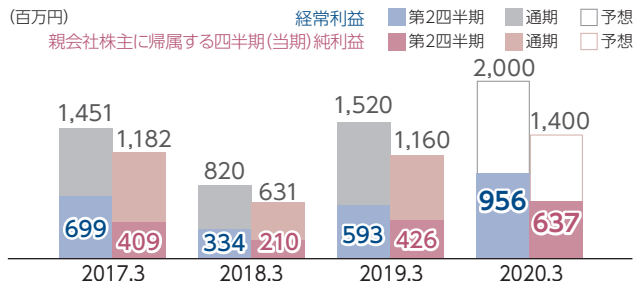
287億18百万円



経常利益

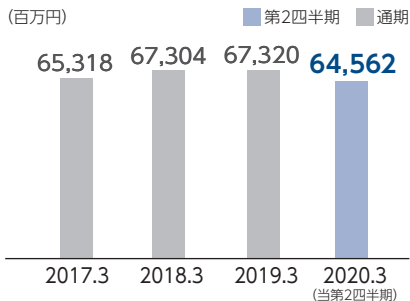
9億56百万円

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 6億37百万円



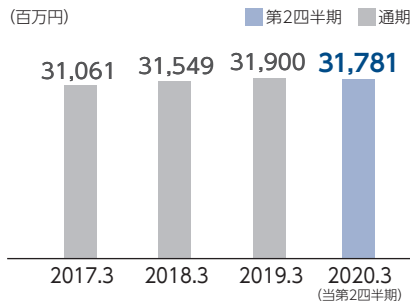
総資産 ※1

645億62百万円



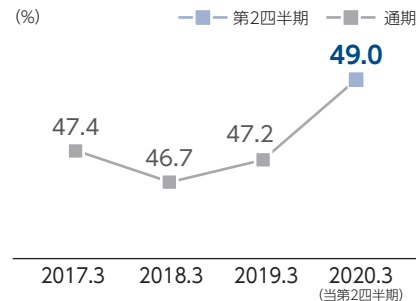
純資産

317億81百万円

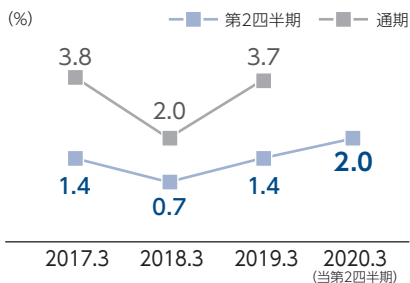


自己資本比率 ※1

49.0%

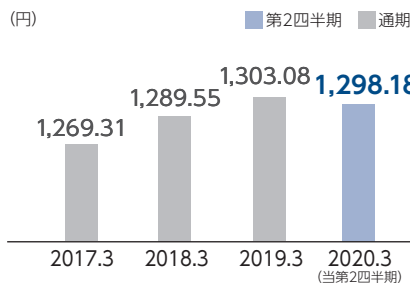


自己資本四半期(当期)純利益率(ROE) 2.0%



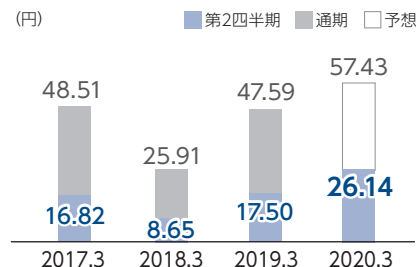
1株当たり純資産 ※2

1,298円18銭



1株当たり四半期(当期)純利益 ※2

26円14銭



【見直しに関する注意事項】上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

※1. 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を2019年3月期の期首から適用しており、当指標については2017年3月期に当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

※2. 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っており、当資料については2017年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の令和元年台風第19号とその後の大雨により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

ここに、当社第55期第2四半期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」や血液バッグの販売が増加しました。海外においては、成分献血用回路や血液バッグの販売が増加しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ2億92百万円増加の287億18百万円(前年同四半期比1.0%増)となりました。

利益につきましては、増収効果に加え、生産拡大に伴う稼働率の向上により、営業利益は8億17百万円(同66.6%増)となりました。また、持分法による投資利益の計上などにより、経常利益は9億56百万円(同61.1%増)となり、税金費用等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億37百万円(同49.5%増)となりました。

配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8円とさせていただきます。

当社は、引き続き「チームJMS」一丸となって中期経営計画《GAIN 2020》に掲げる取り組みを着実に進めるほか、出雲工場への太陽光発電システム導入をはじめ、ESG(環境・社会・企業統治)に配慮した事業活動に努め、医療の更なる発展と持続可能な社会の形成に貢献してまいります。

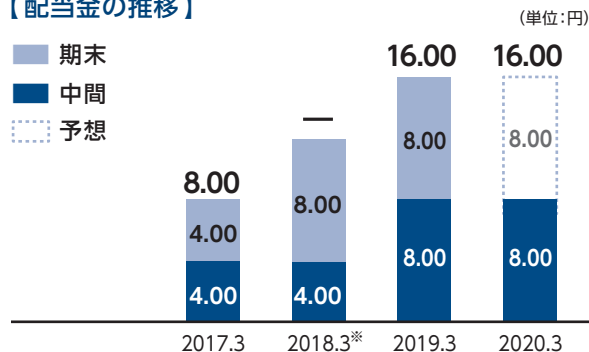
株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月



代表取締役社長
奥窪 宏章

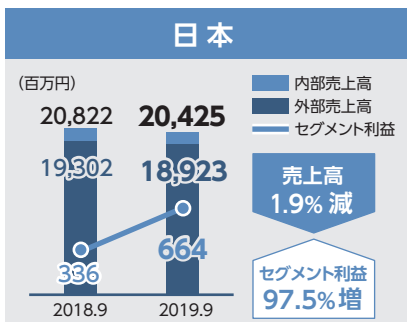
【配当金の推移】



※当社は2017年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。2018年3月期の期末配当金は、株式併合後の金額を記載しており、年間配当金は単純に合算できないため「—」と記載しております。2018年3月期の中間配当金を株式併合後に換算した場合、年間配当金は16円に相当いたします。

■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。



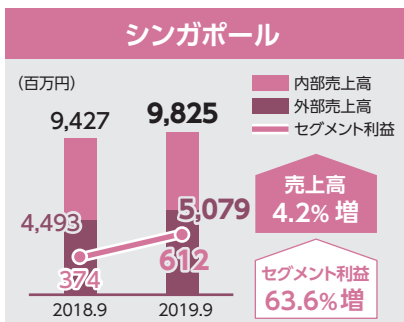
売上高 204億25百万円

[外部顧客への売上高 189億23百万円]

薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」や血液バッグが増加したものの、摂食嚥下関連用品が減少しました。

セグメント利益 6億64百万円

減収影響はあるものの、経腸栄養関連製品の国際規格化に備えた増産に伴う稼働率の向上に加え、子会社からの受取配当金が増加しました。



売上高 98億25百万円

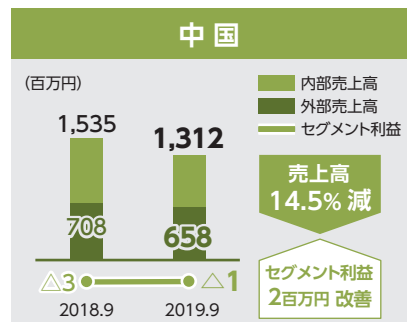
[外部顧客への売上高 50億79百万円]

北米向けの成分献血用回路やアフリカ向けの血液バッグが増加しました。

セグメント利益 6億12百万円

増収効果により増加しました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補充し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。



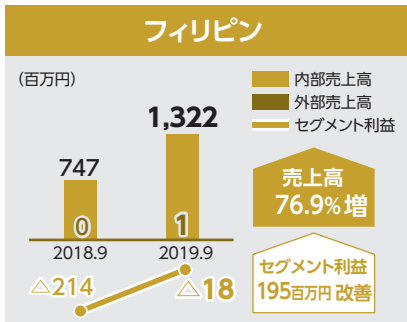
売上高 13億12百万円

[外部顧客への売上高 6億58百万円]

フィリピンへの生産移管により日本向けの輸液セットが減少しました。

セグメント利益 △1百万円

減収影響はあるものの、経費の低減に努めたことにより改善しました。



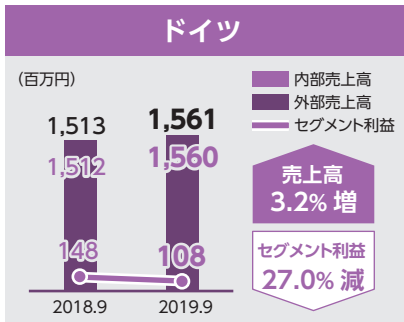
売上高 13億22百万円

[外部顧客への売上高 1百万円]

日本向けの輸液セットが増加しました。

セグメント利益 △18百万円

増収効果により損益状況は改善しました。



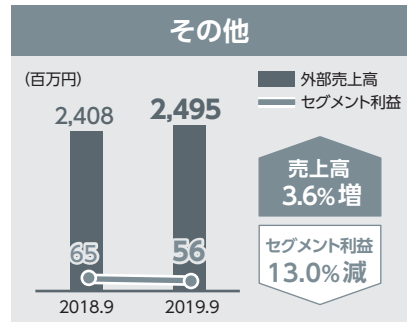
売上高 15億61百万円

[外部顧客への売上高 15億60百万円]

血液バッグが増加しました。

セグメント利益 1億8百万円

為替による外貨建ての仕入取引にかかる原価が増加しました。



売上高 24億95百万円

[外部顧客への売上高 24億95百万円]

*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

セグメント利益 56百万円

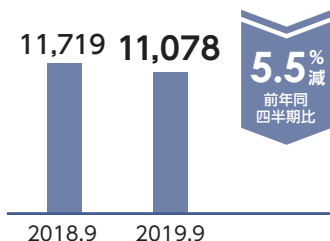
【記載方法の変更について】前期末より、所在地別の報告セグメントの区分を変更しています。従来「その他」に含まれていた「ドイツ」について量的重要性が増したため、報告セグメントとして記載しています。前年同四半期のセグメント情報は、変更後の区分により作成したものを記載しています。

■ システム別売上高

輸液・栄養領域

売上高 **110億78百万円**

(百万円)

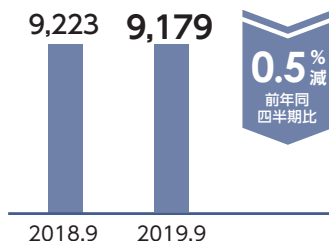


薬剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」が増加したものの、摂食嚥下関連用品が減少しました。

透析領域

売上高 **91億79百万円**

(百万円)

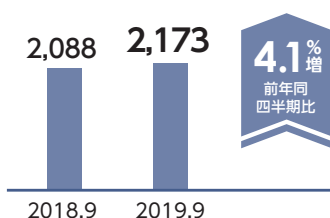


AVF針（血液透析用針）が増加したものの、血液透析装置が減少しました。

外科治療領域

売上高 **21億73百万円**

(百万円)

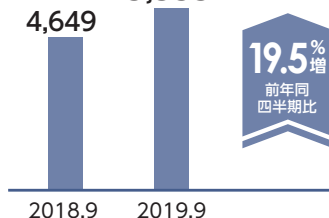


人工心肺装置が増加しました。

血液・細胞領域

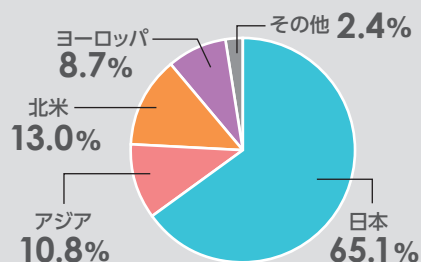
売上高 **55億55百万円**

(百万円)

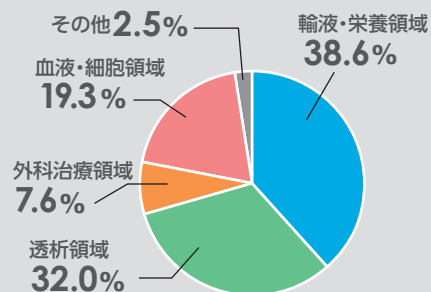


血液バッグや成分献血用回路が増加しました。

■ 地域別売上高構成比



■ システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、注射筒、抗がん剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連製品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザー、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心肺装置、人工心肺回路、ペースメーカー、血管造影用カテーテル、AED（自動体外式除細動器）、他

血液・細胞領域

血液バッグ、輸血セット、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

》中期経営計画「GAIN 2020」～グローバル戦略～より 日本式血液透析システム(CDDS※)の 中国展開

当社では、中期経営計画「GAIN 2020」のもと、海外売上高比率40%を目指したグローバル戦略の一環として日本式血液透析療法のアジアでの普及拡大に取り組んでいます。今回は、拡大を続ける中国の透析市場における当社の取り組みと、グローバル戦略における今後の展望をご紹介します。

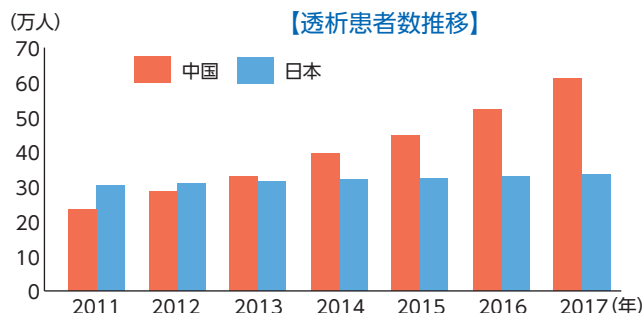
※CDDS(Central Dialysis fluid Delivery System):セントラル透析液供給システム



■ 拡大を続ける中国の透析市場

中華人民共和国(以下、中国)では、2018年時点で、約67万人が透析療法を受けています。日本の透析患者数約33万人と比べ、末期腎不全患者数が200万人以上と推測される中国では、透析療法を受ける患者がさらに増えると予想されています。

そして近年は透析療法が医療保険の対象となったことから、医療費のハードルが下がり、より多くの人が透析を受けられるようになりました。それに伴い中国各地の医療施設では、透析療法のための施設増築や増床、新規開設がさかに行われていることから、透析市場の規模はさらに大きくなると見込まれています。



出典:(中国)NRDSデータ(全国血液浄化症例情報登録システム:Chinese National Renal Date System)
(日本)日本透析医学会「図説 わが国の慢性透析療法の現状 2017年12月31日現在」

■ 当社のCDDS中国市場導入の背景

中国での血液透析療法は、一人ひとりに単独の透析装置を用いる「個別方式」が主流ですが、個別管理するために、専門知識と技術を持つ医療スタッフが多数必要になります。一方、日本で主流の「セントラル方式」の血液透析システム(以下、CDDS)は、透析液の調製を集中管理し、安定した透析液供給を実現することで、少ない医療スタッフで効率的に多くの患者さんに透析療法を行えるというメリットがあります。

なかでも当社のCDDSは、医療の安全と作業の標準化を同時に

実現する血液透析装置と、水の清浄性を極限まで高める透析用水処理装置により、世界最高水準の透析治療を提供します。このCDDSを中国市場に投入できれば、中国の透析医療技術の向上に貢献できるほか、患者が増え続けるなかで安全で効率的な透析療法を提供できると考えました。

そこで当社は中国でCDDSを承認申請し、2014年9月、CDDSとしては中国ではじめての承認を取得。これをきっかけに、本格的に中国の透析市場へ参入しました。



【CDDS (セントラル方式) 概念図】



■ 現地医療機器販売代理店グループとのアライアンスによる販売戦略

中国の国土は广大で、都市間の移動が飛行機で数時間かかることも珍しくありません。当社では、そのように広い市場でCDDSのような人の生命を預かる機器を販売するには、設置後の日常的なメンテナンスや、万一のトラブル発生時のフォロー体制をしっかりと備えておく必要があると考えています。

そこで中国でよりスピーディに販路を拡大していくために、現地で医療機器販売に関する高い実績を有する代理店グループとアライアンスを構築。その代理店グループにおいて、北京をはじめ上海、重慶、広州の主要都市にCDDSの販売拠点を整備したほか、当社支援のもと各拠点に運営ノウハウ、CDDSに関する専門知識、メンテナンス技能を備えた人員を配置しました。その結果、2018年までに20施設を超える医療機関へCDDSを導入しました。

そして当社は本年度「中国事業部」を新設し、中国戦略への本格的な体制を整え、より積極的なプロモーションに取り組んでいます。

CDDS設置状況



北京や上海、大連などの大病院で導入が進んでいます。

当社のCDDSは、セントラル方式の効率性だけでなく、血液透析装置の自動化技術による高い安全性や透析手技の標準化、高レベルで水の清浄化を実現した透析液による感染リスクや環境汚染の減少など、多方面にわたる効果があります。ここでは中国でのCDDS導入施設をご紹介します。



北京

中国人民解放軍総医院(301病院)

中国国内の病院ランクで最高位に位置する病院で、中国の腎臓内科医の中でもトップクラスの医師を数多く抱える病院です。北京におけるCDDS普及の拠点病院という位置づけでもあり、中国国内各地からのCDDSを学びたい医師や技士などの受入も行っています。



上海

復旦大学附属華山医院

1907年に設立された中国赤十字に加盟するトップクラスの病院であり、国内外で高い評価を得ています。中国最先端の透析医療機関でもあり、CDDSによる透析液清浄化、コスト削減等に関する評価を行っています。



河南省鄭州市

鄭州大学第一附属病院



1928年に設立され、職員数12,000名以上、病床数1万床以上で世界最大規模の病院と言われています。2016年9月、透析センターが新たに設立され当社のCDDSが導入されました。また、当施設では地方の透析専門看護師の教育・研修を定期的実施しています。

■ 運用スキルを高める「大連CDDSテクニカルセンター」

CDDSは日本独自の透析システムのため、導入直後の中国で実際のCDDSを体験できる機会は限られていました。そこで当社は、中国でCDDSを本格的に普及していくため、2017年2月、大連JMSの施設内にテクニカルセンターを開設しました。

このテクニカルセンターは、透析液供給システムや血液透析装置の実機を用いて病院と同じ環境で透析操作を実体験できることが大きな特長となっています。



これまでは、主に現地の当社社員や代理店のスタッフに対し、機器の運用やメンテナンスの実務経験を積むプログラムで研修を行ってきました。今後はCDDS導入を検討する医療関係者や、医療スタッフへの実務研修にも力を注いでいく予定です。

そしてテクニカルセンターの効果を検証すると共に、研修に参加された方々のご意見を参考にして、将来は上海など中国主要都市への同様の施設の水平展開も視野に入れていきます。

今後の展開 | 海外売上高比率40%達成を目指して

中期経営計画に掲げた「海外売上高比率40%」の目標を達成するには、透析領域での中国展開はとても重要です。今年新たに10施設への透析システムの導入が決まり、透析装置の契約数も1,000台以上いただいておりますが、施設数の拡大だけを目指しているわけではありません。市場導入期である今は、一つひとつの案件にしっかり対応することで「セントラル方式の中でも、ジェイ・エム・エスのCDDSが優れている」という評価を中国国内に定着させることが重要と考えています。そのような当社ブランドの浸透を通じて、将来的により多くのシェアを獲得できるはず です。

近年、中国政府は、自国内での調達をより強化してきています。大連に現地法人を持つ当社は、これをビジネスチャンスと捉え透析関連製品の現地生産比率を高め「地産地消」を推進す

る予定です。また、中国の医療現場でも感染リスクや医療事故防止への意識は徐々に高まっています。当社にはこうした需要に応えられるシステム製品を多く開発しており、今後の中国ビジネスにおいては透析関連製品のみならず、安全な医療環境づくりに貢献する製品の展開も積極的に押し進める予定です。

さらには中国だけでなく、タイやインドネシアなどASEAN諸国にも、中国での成功事例をもとに、各国の事情に即した戦略を立て、より積極的に進出していきたいと考えています。

執行役員 中国事業部 事業部長
内藤 雅之



子どもたちが、お父さん・お母さんの働く職場を見学

当社はじめての「キッズ参観」を開催しました。

当社は、社員一人ひとりが生き生きと仕事に取り組めるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現、子育て支援の充実に向けた取り組みを行っています。その一環として、社員の家族を本社オフィスへ招待する「キッズ参観」を開催しました。

「キッズ参観」の 目的と狙い

「キッズ参観」は、お父さんやお母さんの働く姿を子どもたちが見学することで、家族内で会社や仕事に対する理解を深めてもらうことを目的とした取り組みです。また参加した社員とその同僚との職場内コミュニケーションの活性化や、職場全体で子育てを応援する雰囲気づくりにつながることを期待しています。



「キッズ参観」プログラム

8月8日、広島本社に小中学生の子どもたち11名が集まりました。



紙芝居を使った会社紹介。



子ども用に用意した名刺を使った名刺交換。



子どもたちはお父さん・お母さんの職場の雰囲気を体感していました。



役員会などで使用する会議室で、奥窪社長への質問会を開催。子どもたちは思い思いの質問を社長に直接問いかけ、社長は笑顔で答えながら真摯に答えました。



医療機器に触れる体験、精密な測定に使用する専門器具や装置を使った実験やゲームなどさまざまな体験プログラムを行いました。

「キッズ参観」を終えて

子どもたちの声



本物の医療機器を見て触ることで、お父さんやお母さんの仕事をより身近に感じる貴重な機会になりました。

保護者の声

自分の職場を家族に見せることで、仕事への意識の変化や職場内でのコミュニケーションを促進させる良いきっかけとなりました。



当社はこれからもさまざまな取り組みをとおして、ワーク・ライフ・バランスの実現に努めてまいります。

JMSバタムが設立25周年を迎えました。

当社は1994年、将来の発展が期待される東南アジアに着目し、グループの生産体制を強化するため、豊富な労働力を有するインドネシア・バタム島に「PT.JMS BATAM(以下、JMSバタム)」を設立しました。

JMSバタムは、今年設立25周年を迎え、7月13日、現地で記念式典を開催しました。式典では会社の発展に貢献してきた社員の表彰をはじめ、取引先の皆様へ日ごろの感謝を伝えました。

JMSバタム社長の榎原は、25周年を迎えられたことへ感謝するとともに、「これからも『ひとつのチーム』として高品質な製品をお届けし続けられるよう頑張ってください」と今後一層の努力と発展を誓いました。

JMSバタムはグループ生産拠点に止まらず、さらなる市場成長が期待されるインドネシア国内での販売を開始しており、当社のグローバル戦略における重要な海外拠点のひとつとして新たな取り組みを進めています。



記念式典の様子

ESG 持続可能な社会への貢献

出雲工場で太陽光発電システムの稼働を開始しました。

当社は、環境への対応は私たち共通の重要な課題と認識し、全事業所において省エネを推進する活動や設備を積極的に導入しています。

その一環として出雲工場に850kWの発電能力を持つ太陽光発電システムを導入し、本年10月より工場の照明や生産活動の新たなエネルギー源として稼働を開始しました。

この太陽光発電システムで、一般家庭約100戸以上の年間発電量が得られます。

当社ではこれからも事業活動に伴う環境負荷の低減を図り、持続可能な社会の形成に貢献してまいります。



主要諸元	パネル数	3,014枚
	発電能力	850kW
	発電量	800,000kWh/年*
	CO ₂ 削減効果	430t/年*

※予想される20年の年平均値

財務諸表《連結》

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度 2019年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2019年9月30日現在	科目	前連結 会計年度 2019年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2019年9月30日現在
《資産の部》			《負債の部》		
流動資産①	37,748	35,002	流動負債②	22,663	21,283
現金及び預金	7,081	4,502	固定負債③	12,756	11,497
受取手形及び売掛金	15,846	15,730	負債合計	35,420	32,781
たな卸資産	13,835	13,827			
その他	985	942	《純資産の部》		
固定資産	29,571	29,560	株主資本	31,821	32,308
有形固定資産	23,413	24,164	その他の包括利益累計額	△56	△653
無形固定資産	503	491	非支配株主持分	135	125
投資その他の資産	5,654	4,904	純資産合計④	31,900	31,781
資産合計	67,320	64,562	負債純資産合計	67,320	64,562

POINT 解説

① 流動資産 [前連結会計年度末に比べ
27億46百万円減少]

・借入金の返済により、現金及び預金が減少しました。

④ 純資産 [前連結会計年度末に比べ
1億18百万円減少]

・為替換算調整勘定が減少しました。

② 流動負債 [前連結会計年度末に比べ
13億79百万円減少]

・借入金の返済により、1年内返済予定の長期借入金が減少しました。

③ 固定負債 [前連結会計年度末に比べ
12億59百万円減少]

・流動負債への振替により、長期借入金が減少しました。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日～ 2018年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日～ 2019年9月30日
	売上高	28,426
売上原価	21,225	21,143
売上総利益	7,200	7,575
販売費及び一般管理費	6,710	6,757
営業利益	490	817
営業外収益	280	307
営業外費用	177	168
経常利益	593	956
特別利益	4	2
特別損失	29	6
税金等調整前四半期純利益	568	952
法人税等	140	314
四半期純利益	427	638
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	426	637

>>> POINT 解説

⑤ 売上高 [前年同四半期に比べ
2億92百万円増加]

・地域別では北米とアフリカ、システム別では血液・細胞領域での販売の増加により増収となりました。

⑥ 営業利益 [前年同四半期に比べ
3億26百万円増加]

・増収効果に加え、生産拡大に伴う稼働率の向上により増益となりました。

⑦ 経常利益 [前年同四半期に比べ
3億62百万円増加]

・営業利益の増加に加え、持分法による投資利益の計上等により増益となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 2018年4月1日～ 2018年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2019年4月1日～ 2019年9月30日
	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,573
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,347	△1,567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,796	△2,527
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△176
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△1,573	△2,614
現金及び現金同等物の期首残高	7,220	7,216
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,647	4,602

>>> POINT 解説

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー [前年同四半期に比べ
84百万円収入増加]

・税金等調整前四半期純利益の増加によるものです。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー [前年同四半期に比べ
2億20百万円支出増加]

・有形固定資産の取得にかかる支出の増加によるものです。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー [前年同四半期に比べ
7億30百万円支出増加]

・借入金の収支差額によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

●当社の概要

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,655人 (グループ総数 6,320人)

●役員

代表取締役社長	奥 達 宏 章	常勤監査役	近 藤 良 夫
常務取締役	粟 根 康 浩	社外監査役	早稲田 幸 雄
取 締 役	佐 藤 雅 文	社外監査役	水 戸 晃
取 締 役	桂 龍 司		
取 締 役	柳 田 正 吾		
社外取締役	池 村 和 朗		
社外取締役	石 坂 昌 三		

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、製造拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- 株式会社 韓国メディカル・サプライ 《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《製造・販売》
- 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司 《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション 《販売》
- パイオニック・メディツィンテックGmbH 《販売》
- PT. ジェイ・エム・エス・パタム 《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC. 《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD. 《販売》

国内ネットワーク

子会社

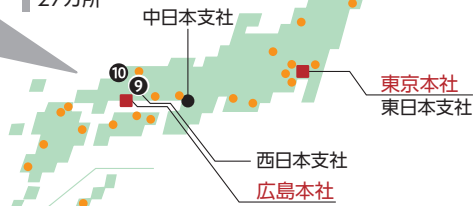
- ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》

関連会社

- 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ
《医薬品の製造・販売》



● 営業所
国内販売拠点
27カ所

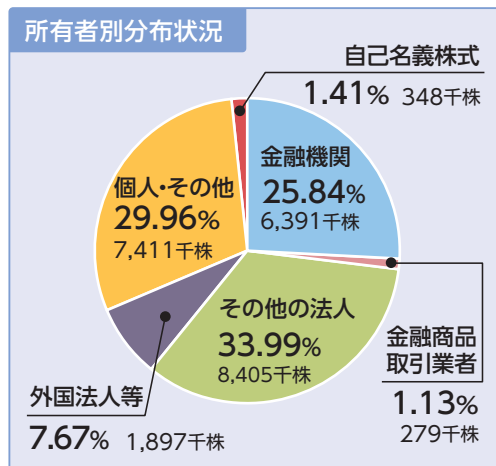


株式概要 (2019年9月30日現在)

◇発行可能株式総数 …………… 65,000,000株

◇発行済株式総数 …………… 24,733,466株
(自己株式348,630株を含む)

◇株主数 …………… 4,496名

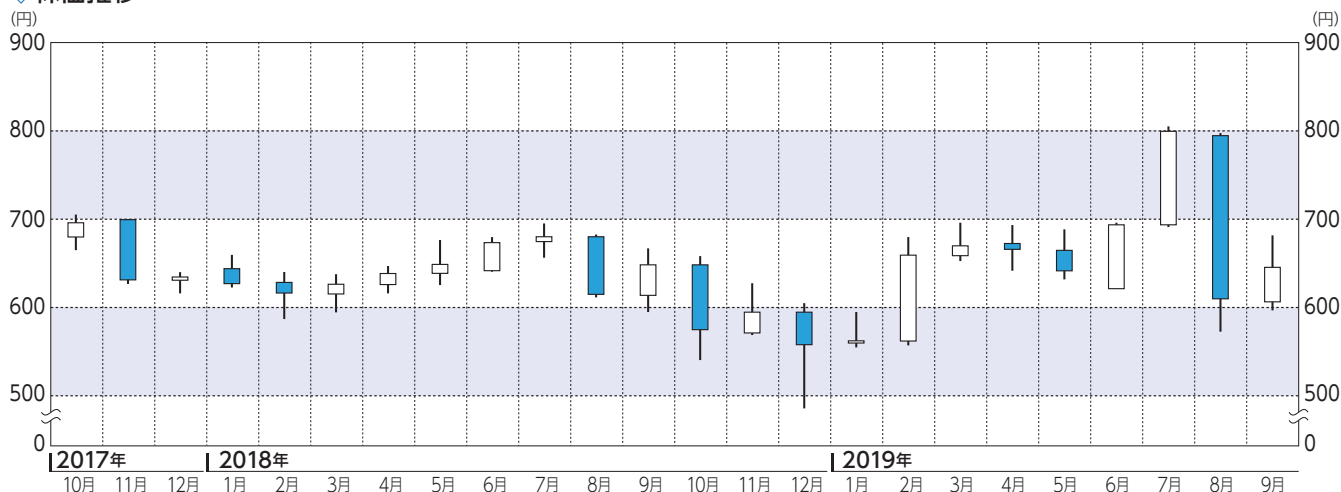


◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.79
土谷佐枝子	1,008	4.13
社会福祉法人千寿会	1,000	4.10
株式会社広島銀行	895	3.67
第一生命保険株式会社	861	3.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	823	3.37
大下産業株式会社	571	2.34
JMS共栄会	524	2.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	508	2.08

(注) 持株比率は、自己株式(348,630株)を控除して計算しております。

◇株価推移



株主メモ 証券コード：7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <http://www.jms.cc/>



株式会社 JMS

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】
テーマ
「広い世界へ」



日本と世界をつなぐライン
とつながる人のモチーフで
構成しました。
世界の人々の健康を願い、
製品を開発し、届け続ける
姿勢をイメージし、翼のある
地球は世界に羽ばたくJMS
を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。